

大自然が育んだ信濃川のかたち

信濃川のかたち・近代編

大河津分水路は人間によって造られた人工河川です。大河津分水路が出来たことによって、越後平野の土地利用が劇的に変化しました。

大河津分水路への道のり

かつての越後平野は、湿原でした。たび重なる信濃川の洪水に家々が押し流されたり、人命が奪われたり何度も災害を受けてきました。

人々は洪水被害から免れるため、大河津分水路建設の計画を江戸時代の中頃から考えていました。

約350年前（江戸時代初期）

現在

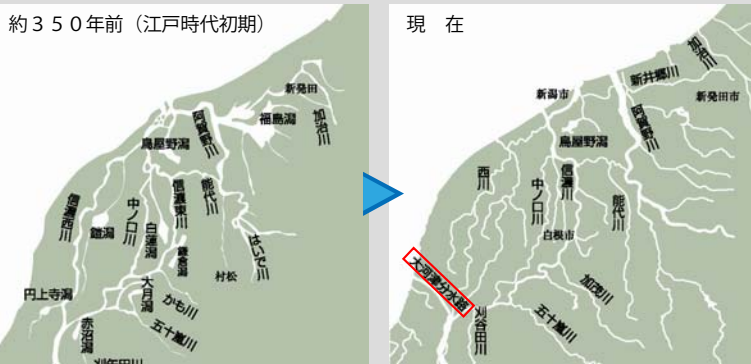


図2.1.1 越後平野の今昔

大河津分水路のかたち

大河津分水路はなぜ今の位置に造られたのか？

多くの支流を集めながら北上する信濃川は、燕市大川津で最も日本海に接近します。そこで、燕市大川津から野積海岸までの約10kmが分水路の最適ルートと選ばれました。



図2.2.1 大河津分水路航空写真



図2.2.2 大河津分水路地形的位置

位置図



大河津分水路の恩恵

大河津分水路の完成により、越後平野は氾濫被害がほとんどなくなり、この地域に大きな経済効果をもたらしました。



図2.3.1 腰まで浸かっていたの稲刈り(昭和26年新潟市)

腰まで浸かるような湿田が、乾田化され日本一の穀倉地帯へと生まれ変わりました。

上越新幹線や北陸自動車道、一般国道8号など交通幹線は越後平野の中心部を一直線に貫くように建設できました。

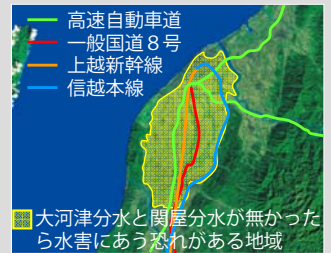


図2.3.2 越後平野の浸水想定図



図2.3.3 信濃川を埋め立てた河口部

埋め立てられた信濃川河口部には、新しい市街地が形成され県都新潟市は大きく発展しました。

大河津分水路の工事

大河津分水路は明治3年に工事が始まり、工事の中止・再開、計画の変更を経て大正11年に始めて通水し、大正15年に竣工しました。



図2.4.1 大河津分水路建設状況